

南の風 535

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

534号のゲーム状況における形勢（有利、不利、対等）の続きです

形勢とは、変化する物事の、そのときそのときのありさまのことですが、バスケットボール的に言えば、攻守の戦況におけるアドバンテージを認識するための判断指標のことです。プレーを選択する際には、戦況に対して必ず「有利」「不利」「対等」を見極めることを求めます。「状況を見て判断しなさい」という場合は、文脈を読んで「有利・不利・対等」によってプレーを選択するということです。ただし、形勢にもとづく判断は、変化する状況や文脈によって変わってくるという視点を忘れないようにしましょう。

例えば、選手の人数比による「有利・不利・対等」は分かり易いのですが、形勢の判断基準は数だけではありません。サイズのミスマッチ（個の優位性）、ダウンヒル（ディフェンスの準備ができていない相手ゴールに向かって勢いよく走り抜ける爆発的なエネルギーを使うことができる状況）やアップヒル（ディフェンスの準備ができていない状態）のゲーム状況、あるいはポジショニングやプレーのタイミング（状況の優位性）によっても「有利」と「不利」が分かれてきます。

このように選手には、ゲームにおける「有利・不利・対等」を敏感に察知する能力が求められます。バスケットボールという競技は常にこの形勢（信号）が変わるスポーツです。形勢に応じて、どう攻め、どう守るかをチームの原則に沿って、選択・実行していく能力を競い合っていると言えるでしょう。

④ポイントオブアタック（POA）

ある場所（エリア、スポット）を攻めたら次にある場所が攻めのポイントになるというアタックの狙い目、いわゆる「攻めのツボ」のことです。現在地をもとにしたPOAは因果関係的な論理でつながっています。「ここを攻めたらここが空く」というポイントをつかんで攻めないと、単に動きをなぞっているだけ、やっているだけと言うことになります。実際にそのような選手が多いように見受けられます。今はどの局面の、どのゾーンにいて、どの段階なので「こうするからこうなる」というPOAをチームで共有していくことが戦術を形成するうえでも重要です。

(3) プレーの良し悪しを左右する重要概念

バスケットボールの攻守のプレーの良し悪しを左右する重要な概念です

基本概念① スペーシング

選手どうしが取るべき距離あるいは空間のことをスペースといい、そのスペースを調整するために離れたり近づいたりすることをスペーシングといいます。ゲームにおいては状況に応じて機能的で効果的なスペーシングを続けられるかどうかによって、チームのパフォーマンスは大きく変わってくると言えます。

基本概念② ポジショニング

選手のコート上での位置をポジションといい、その位置取りをしてゴールや相手選手との距離や位置関係を操作することをポジショニングといいます。

次号に続けます